

| | |
|--------|--|
| 指導のヒント | 教科（算数・数学など）のつまずき |
| | 算数、数学は日本語の媒介語の干渉なく解ける問題も多いので、私たちの日本語教室では、子どもに自信を持たせ、スムーズな通級につなげるために、比較的早く導入します。 単純な割り算、筆算、分数などでつまづいてしまった場合、いくつかの原因がありました。 |

特定の単元でつまづいた場合

- 1) 母語では理解できているか確認する（通訳や保護者に頼める場合）
- 2) 出身国では違うやり方で教わっているのでは戸惑っているのではないか（筆算の仕方など）

低い学年で基礎を教えている単元を見つけ、基礎の練習問題を解かせて理解と自信を養う

単元に関わらず進まない場合

算数・数学そのものができない、嫌いな場合、お買い物ごっこで、おつりの計算をするなど関心のあるトピックを利用しました。お釣りの計算はできるのに、紙で書いた引き算はできないという場合もありました。硬貨のイラストで足し算、引き算をし、小1の足し算、引き算に戻って自信をつけさせることで、苦手意識を克服しました。

日本語や他の文系教科は問題なく、本当に数学が嫌いな中学生もいました。得意な教科を伸ばしたいという本人と保護者の気持ちを聞いて、英語、国語などをがんばっていましたが、数学の点数も上げたいという本人の希望で数学もするようになりました。